

ひこねえ

第 57 号

発行日 平成 28 年 1 月 15 日

発行 公益社団法人遠野市シルバー人材センター

広報編集委員会

遠野市青笹町棟前 9-7-6

電話 0198-62-0577

理事長新年挨拶

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族と共にお健やかに平成二十八年の新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

平素は、当センターの事業運営につきましては格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、平成二十七年の世相を一字で表す「今年の漢字」が「安」と発表されました。安全保障関連法の審議過程に国民の関心が高まったことや、世界で頻発するテロが人々を不安にさせたことが理由に挙げられたようです。このことは、平成二十八年が安心・安全を願う社会をつくっていかうという国民の総意ではないでしょうか。

今月から、運用・導入が始まったマイナンバー制度。社会保障・税・災害対策の三分野でマイナンバーの運用がスタートしました。また、平成二十九年四月に導入予定の軽減税率が、決定するなど今後ますます重要な課題が山積されております。

こうした中、昨年の二月安倍内閣総理大臣の施政方針におきまして「高齢者の皆さんに多様な就業機会を提供する。シルバー人材センターには、更にその機能を發揮してもらいます」と、述べておられました。しかしながら、二度の行政刷新会議の「事業仕分け」による国の補助金予算額の大削削減による、職員数の削減により、十分な就業機会の提供が

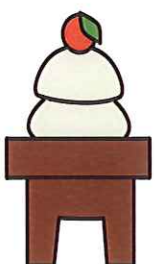
できない状況が続いております。そうした中で、高齢者の受け皿としての機能を十分に發揮し、会員と一体となって喫緊の課題である「就業機会と会員の拡大」の目標達成のため、効果的な戦略を、役員がもてる能力を最大限に活かし、熱い思いをもって事業推進に努めてまいります。

本年は、さる年であります。目・耳・口を両手でふさいでいる三匹の猿の姿が「見ざる聞かざる言わざる」という諺もありませんが「目を凝らし、耳を傾け、口を添える」思いであります。会員の皆様には、今年も安全就業に留意され、一層のご協力をお願い申し上げますと共に、明るい幸せな年でありますよう祈念申し上げます、新年のご挨拶と致します。



迎春

理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	副理事	副理事
事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事
高木	山口	古川	山蔭	菊池	菊池	木下	菊池	菊池	菊池	藤田	留場	佐々木
一	清	憲	和子	民彌	由明	善隆	睦子	睦子	睦子	一男	一男	明敏



平成二十七年地域班会議終わる

九月二十四日から十一月二十七日までの間に全二十班の班会議並びに地域班ボランティア活動が開催されました。(左表)

各班からの課題・要望等で最も多かったのは、会員の増員についてであり、事務局からも、会員さんからの「この人なら会員にふさわしい」と思われる方に、声掛けをお願い致しました。
また、今年度は、特に発注者との関わり方について認識を新たにしたところです。



班	日程	会議場所	活動場所	参加率
1	11月24日	遠野1区自治会館		46%
2	11月17日	日枝神社社務所		100%
3	11月5日	遠野7区自治会館		75%
4	11月19日	桜馬場自治会館		83%
5	10月16日	遠野13区自治会館		69%
6	10月21日	日枝神社社務所		77%
7	11月16日	綾織地区センター		54%
8	11月16日	綾織地区センター		50%
9	11月11日	たかむろ水光園		86%
10	11月27日	福祉センター	松崎地区センター周辺	94%
11	11月11日	遠野市ふれあいプラザ	遠野市ふれあいプラザ周辺	71%
12	11月20日	松崎町7区自治会館	サッカー場及び福祉センター	100%
13	11月19日	松崎8区自治会館		75%
14	11月11日	たかむろ水光園		50%
15	10月28日	青笹地区センター		81%
16	10月20日	上郷地区センター		68%
17	11月2日	新町集会所	mml	75%
18	11月12日	上宮守地区集会所	上宮守バス停	50%
19	10月28日	達曾部幼稚園・保育所		75%
20	9月24日	鱒沢小学校		75%
全 体				71%

永年の活動が評価され 環境保全活動表彰を受賞

十一月二十一日、午後一時半からあえりあ遠野中ホールで開催された「明日の遠野の環境を考えるフォーラム二〇一五」の席上で、遠野市シルバー人材センターが平成二十七年遠野市環境保全活動表彰を受賞しました。

主催したのは環境フロンティア遠野(似田貝順一 会長・二十団体、九個人で構成)で遠野市・遠野市教育委員会が共催。環境に関する標語などや写真コンテストと併せ三団体・三十個人の受賞となりました。



シルバー人材センターの受賞理由は、約二十年にわたって遠野駅前から鍋倉公園展望台までのゴミ拾いや草刈りを実施するなど、環境美化活動が評価されたもので、市民はもとより観光客からも好評を得ています。この会員の永年の努力に、会場は惜しみない拍手で包まれました。
受賞した佐々木明敏理事長は「会員皆様のお陰で受賞できた。今後も継続する」と喜びを話していました。

(取材 木下 隆)

冬到来 除雪作業機準備完了

十一月二十六日（木）午前九時、札幌は四十センチを超える大雪の中、当市は小雨。恒例の除雪作業機出発式はふれあいプラザ玄関で開催されました。

冒頭、佐々木理事長からは遠野市環境保全活動表彰受賞（別掲）の話、菊池攻安全衛生管理委員長からは健康管理、安全就業に努めてほしい旨の、それぞれ挨拶がありました。

車庫には昨春から保管中の六台の除雪機が待機。整備状態も良く、すぐに力強いエンジン音を発し、それぞれ各町の所定の場所に搬送されました。

間もなく到来する長い冬。ふるさと遠野の除雪は、今昔の課題で、除雪機の始動はその光明の一端に触れる思いがありました。まずは順調な滑り出しの出発式となりました。

しかし、除雪をめぐる問題は大きく二点ほどが挙げられます。ひとつは雪捨て場。現在は県と市の協議で上早瀬川の河川広場のみ指定され、個人や事業者も利用してはいますが、遠隔の宮守や上郷の利用者には不便があり、その改善策の検討が必要です。

ふたつめは除雪弱者対策。高齢者が急激に増加している状況下で、市では軽度生活援助支援事業（本人申請による雪かき支援・認定）で六十二件を処理。社会福祉協議会では家族支援や制度対象外の五世帯にスノーバスターズを実施。また、小友地区には小友スノーバスターズも結成されたとのこと。さらに一部自治会では町内除雪検討の動きもあるなど除々に対応も広がっていますが、まだ組織、団体等での活動の連携不足が否めない状況です。

除雪は市民生活に直結する問題であり、時には重大事故に発展する危険性もはらんでいます。異常気象も叫ばれる昨今、市全体の活動を統括し、きめ細かい対策へと方向づける「市民パワー」の発揚が、今こそ



必要とされています。

昨年、シルバー人材センターが除雪を受注した件数は三十八件、三百八十回程度出勤していますが、従事した会員は二十七人。申し込みの約半数ほどをお断りしている状況です。

従事者の少ない理由は、降雪の見込みが立たず、長期に渡って日程が拘束されること、重作業であることなどが主ですが、成功しているチームは3〜5人程度の編成で、作業時間の調整や連絡網の活用で対応。極力ムリ・ムダを排除し、お客様のニーズにに応じていることです。除雪作業希望者の拡大が今後の課題となっています。

除雪機出発式にあたって、改めて厳しい遠野の冬を乗り切るには多くの市民の協力と知恵が必要と痛感した一日でした。

（取材 木下 隆）



除雪機的安全確認中！



鍋倉ボランティア活動

—安全に綺麗に—

十月二十三日（金）、毎年恒例の鍋倉公園ボランティア活動が会員二十八名の参加により開催されました。

開会セレモニーの後に集合写真を撮影し、南部神社境内で、剪定、清掃の二グループに分かれ作業に取り掛かりました。この日は放射冷却の影響で気温も3℃と寒いなか、天候には恵まれた日和

で、鍋倉公園を管理している都市計画課石橋課長他四名の方々、南部神社宮司の細越様のご協力により、約三時間で予定された活動は全て終わることができました。

最後には、公園を管理している担当課から提供されたお茶をいただき解散となりました。皆さん、大変お疲れ様でした。

また、今回参加できなかった方は、次回是非参加していただき、仲間と心地よい汗を流して頂きたいと思いました。

（取材 高橋 文男）



平成27年度11月末事業実績（前年比較）

受託事業（請負・委任契約による仕事）

（4月～11月末）

項目	平成25年11月末	平成26年11月末	平成27年11月末	前年比
受注件数	1,276件	1,147件	1,071件	93.4%
契約金額	42,779千円	46,626千円	42,929千円	92.1%
配分金額	37,462千円	41,725千円	38,161千円	91.5%

一般労働者派遣事業（派遣契約による仕事）

（4月～11月末）

項目	平成25年11月末	平成26年11月末	平成27年11月末	前年比
受注件数	42件	18件	36件	200.0%
契約金額	18,584千円	9,287千円	7,562千円	81.4%
賃金	14,508千円	7,045千円	5,738千円	81.4%

入退会者数（平成27年4～11月）

（単位：名）

26年度末計	入会者数	退会者数	合計
男	150	11	154
女	92	7	96
合計	242	18	250

受託事業の受注件数が減少している理由として技能を要する換・障子張り、庭木剪定作業を希望する会員が少なく、仕上がり納期を伸ばす等の対応をしておりますが、急ぎの納期に関してはやむを得ずお断りしている状況であります。

派遣事業はバスの運転、清掃業務が増えたものの、市民センター改修工事に伴い、受付業務及び駐車場管理業務が六月で終了となったため契約金額が減少しております。

平成二十七年四月～十一月の入会説明会参加者は二十名のうち十八名が入会しました。（表左）

退会理由は、病气（本人）五名、死亡二名、希望する仕事がない一名、その他二名でした。

ふすま張り講習会



遠野会場

十二月二十一日（月）午前九時から午後四時まで、当シルバー人材センター作業場において、「ふすま張り講習会」が開催されました。これは、岩手県シルバー人材センター連合会主催の事業で、「遠野会場」として開催されたものです。参加者は、シルバーの会員七名（男五・女二名）・一般の方五名（男一・女四名）計十二名でした。

講師は、職業訓練法人岩手中央職業訓練協会の指導員前田朝雄先生（総合インテリアマエダ）で、講義は軽妙でわかりやすいお話と、実技指導により、楽しくふすま張替え実習が出来ました。（写真）

研修内容は ①安全衛生・作業の基本知識Ⅱでは、作業する部屋の温度と湿度を大事にしてほしい、これは、糊の作り方や作業の仕方が変わる。適温は十五度前後で、六月の入梅、雨の日などがよい、また、道具のことなど詳細にお話しをしていただきました。

②ふすま張り替え方法基本実習（・枠の外し方・金具の外し方・やぶれの補修・張り付け実技）Ⅱについては、三テール編成とし、それぞれに経験者を配置するなどわかりやすく実習することができた講習会となりました。

（取材 菊池秀昌）



畑ワサビ栽培の取り組みについて

副理事長 留場 榮一

近年、加工用原料としてワサビの需要が高く、安定した価格で販売が出来る作物として、行政でも推進しております。

気候、風土の条件にも適しており、多方面から情報を得ながら当センターとしても、就業場所の確保の一環として、理事会で検討した結果取り組みことにしました。

取り組むにあたっては、栽培圃場の確保について、丁度、当センター事務所の南側約三百メートルの所に適した平坦な松林を約十七アール借上げたものです。作付面積が約十アールで、苗を三、二〇〇本、植え付けしました。

取り組んで分かったことは、良い面は、価格が安定していること、また、収穫、販売に手数が比較的にかからないことです。

一方、圃場の整備には、機械作業、人的作業に要する費用が多額で、しかも栽培期間が長い事（一年半）や、連作に適さない事の課題があることです。

これから収穫までの作業として落葉の除去や除草、病害虫の防除等の管理作業があります。

年度の途中で実施することにしたものですので会員の皆さんも関心を持って見て頂き、協力していただきたいと思います。

以上が畑ワサビ栽培についての概要です。



おじゃまします

松崎町白岩にある株式会社岩手TKRのアグリ事業部を訪問。この中で、シイタケ栽培用の菌床の破袋（袋から取り出す）と陳列の作業に従事している会員におじゃましました。

株式会社岩手TKRは、休止していた松崎町の工場の再利用を図り、シイタケの菌床をバイオ育成し、その菌床を活用して、菌床シイタケの栽培に取り組んでいます。

当シルバー人材センターは、七月末から、株式会社岩手TKRと栽培作業の一部について請負契約を結び、九人の会員が職群グループを組み、毎日二人体制で午前八時三十分から半日程度、作業に従事しているとのこと。内容は、一定の温度の中で、一、〇二〇個の菌床の破袋を行い、それに散水したあと、菌床を一個毎に発生棚に整列していく作業で、最後には、自分達が働いたあとの床を清掃して終了となります。おじゃました時間帯は、散水した菌床を発生棚に整列する作業をしていました。

今日の作業従事者は、女性の二人組です。作業についての感想を伺うと、「最初は菌床の破袋作業に苦労しましたが、今では慣れました。満足して働いています」と元気に話していました。頑張って作業してくださいね。

（取材 菊池 民彌）



写真 (左) 河村 ゆみ さん
(右) 小林 敏子 さん

《事務局より》株式会社岩手TKRにて菌床シイタケの破袋作業に興味のある会員の方はお声掛け下さい！

2015 IBCまつり IN アピオ

九月十二日(土)～十三日(日)の両日、滝沢市の岩手産業文化センター(アピオ)でのIBCまつりのボランティアに参加してきました。

この祭りは、恒例のイベントで県内のシルバー人材センターだけでなく、全国各地からも多くの農作物や手作り品が展示販売されておりました。

当シルバー人材センターも会員が一所懸命製作した安価で丈夫なエコクラフトカゴ、豆類、はちみつ等の農作物を展示販売し、多くの皆さんが手に取り品定めしていました。

また、参加の主目的であるボランティア活動は、広大な会場内で大量に出るごみの分別作業で、県内の会員と合同で心地よい汗を流しました。

最後に、初めて会った会員との再会を約束し、会場を後にしました。

参加した会員の感想は以下の通りです。

初めて参加しましたが、人がたくさん出ているのでびっくりしました。仕事の内容はゴミの分別回収と運搬の仕事。運搬して戻るとまた入れ物がいっぱいびっくりしました。

梶原 儀治

参加された皆さん、大変お疲れ様でした。

（取材 高橋 文男）



写真(左)菊池善悦理事 (中央)梶原儀治さん



会員の声

第五班の取組み

五班（遠野十二、十三区）高橋 文男

十月十六日（金）十時～十三時まで班内会議を開催いたしました。

第五班は、市内でもっとも多い二十六名の会員で組織され、十八人の会員が参加しました。

最初に遠野第十三区自治会館周辺の環境整備（雑草取り）を行い、終了後は自治会館和室に移動して班内会議を開催しました。

会議では、事務局からの聞き取りや事務連絡、質疑応答、会員相互の意見交換が和やかな雰囲気で行われ、終了後は会員同士で思い出話等に花を咲かせ、終了することができました。参加された会員さん、ご協力ありがとうございました。



シルバーフェス

スーパーボールをつかめ!!

を出店

遠野市産業まつり

十月十日（土）～十一日（日）の両日、中央通りの蔵の道広場で、第四十一回遠野市産業まつりが開催されました。二日目はあいにくの雨天となりましたが市内外から四十七の企業・団体が出店し、多彩な食品や、物品の販売が行われました。

ステージでは、市内の園児による踊りなども披露され、JAによる餅振る舞いや、ミニ上棟式など大盛況でした。



シルバー人材センターでは、竹細工など工芸品・穀物・鉢植え等多数展示販売されておりました。

店先の中央に「スーパーボールをつかめ! 三回百円」の看板の前では家族ぐるみの賑わいです。（写真）

さすが、シルバーブラス、孫たちへの優しい企画に感動しました。

（取材 菊池 秀昌）



お知らせ

○「シルバー産直コーナー」及び産業まつり等で販売する商品を随時募集しております。皆さんが作った野菜（日持ちする物）・豆類・手作り品等ひとつでも構いませんので、出品できる方は事務局までご連絡願います。

○「適正な就業」のため継続就業現場での就業希望者を募集中です。1件の就業につき、1人が働くことのできる日数はひと月10日以内です。やってみようかな、など気になる就業現場がありましたら、遠慮せずに事務局までお問い合わせ下さい。

○「もっと仕事をしたい」という会員の皆さんどしどし事務局に声を掛けて下さい。就業希望会員が足りないことから、規模が縮小されたり、やむを得ずお断りすることもあります。折角頂いた仕事で「共働・共助」しましょう。

会員募集中!!

会員さんからの「この人なら会員にふさわしい」と思われる方に、声掛けをお願い致します。また、ご夫婦や兄弟・姉妹で会員という方も増えていますので、遠慮せず事務局までお問い合わせ下さい。

今後の予定

- 1月 パソコン教室
 - 1月28日 地域班会議欠席者説明会
入会后6カ月及び1年経過者研修会
(対象者には通知致します。)
 - 2月 健康教室
 - 3月上旬 人材育成事業(派遣)
第5回総務委員会
第6回理事会
第2回地域班長会議
第2回安全衛生管理委員会
 - 3月中旬 第2回独自事業推進委員会
- 毎月25日(土・日・祝日は翌日)
入会希望者説明会(13:30~)

新入会員の紹介

平成二十七年九月から平成二十七年十二月までに入会された方々です。よろしくお願ひします。(敬称略)

五 班	五 班	十六 班	十一 班	六 班
阿 部	戸 澤	佐 藤	菊 池	佐 々 木
春	友	正	榮	
藏	藏	章	孝	子

〈 編 集 後 記 〉

明けまして、おめでとうございます。良いお年をお迎えの事とお慶び申し上げます。賑やかだった秋祭りも終わり、四方の山々を赤く染め、次には芸術の秋を迎えたかと思えば、アツという間に年を越しました。一年のなんと短い事。日々、何かに追われて過ごしているような、忙しい暮らしではあります。時々、忙中閑有り、ゆっくりとした足取りで、野山を散策人と車から降り、ゆっくりとした足取りで、野山を散策し、「こんな時間があっても良いよね」と話しながら。「アザミが咲いているよ」、「野生のりんどう小さくて可愛いね」と。至福の一時です。こんな日もあれば、時には、思い掛け無しの出来事に動じている自分があります。何事にも、ドツシリとかまえて生きて行きたいものと反省する事、大いに有ります。

我家には、小学二年生の活発で、元気な女孫がおります。最近、孫の物を片付けていたら、孫の書いた(詩と言えるかどうか解りませんが)、文書を見つけました。

「海」と題したものでした。(左上)

この文章を読んで、ハッ!としました。孫の言葉のように、明日も、明後日も変わらず、自分は自分らしく有りたものです。

今後の人生、人生の総締めくくりという思いで、自分を見失う事無く、過ごして行きたいものと思っております。

それでは、今年度、最後の発行になりましたが、引き続き広報「ひこぼえ」をご愛読下さいますようお願い致します。

今回も、会員の皆様の協力の下、広報編集委員全員の一致協力の上での発行でした。おつかれ様でした。次号もどうぞ、お楽しみに!

あるいていく
いつかの思い出



広報編集委員長 菊池 睦子